

## Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

## About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

『おきなわ』解説・総目次・索引

不二出版

## II 総目次

『おきなわ』総目次・凡例

- 一、掲載にあたり、新城栄徳編「雑誌『おきなわ』総目次」〔敍説〕第15号、花書院、一九九七年八月、175―187頁）を改訂した。
- 一、各号の標題は、編集部で巻号数／特集名／通巻号数に統一し、印刷日と発行日を付記した上で表紙画を掲載した。なお、原本の奥付表記は第二巻第六号（通巻一三号）までは巻号数表記を基準とし、通巻第一四号以降は通巻表記を基準としている。
- 一、目次項目は、タイトル、執筆者、掲載ページ。（ ）は文章末尾を表す。
- 一、原則として旧漢字は新漢字に改めた。
- 一、編集部で補足、訂正した箇所にも\*印を付した。
- 一、執筆者については適宜、注を施した。

（作成者・新城栄徳）

第一巻第一号

通巻第一号 (創刊号)

昭和二十五年三月二十五日印刷

昭和二十五年四月一日発行



巻頭言

講和会議と沖縄

蔡温

故郷点綴 (上)

八重山のはなし

首里を思う

わが父を語る——世相史の一部として

随筆

空手漫語

回顧四年

沖縄やまと口礼讃

光を求めて

\* 詩「山ももの季節」

教職にあるふるさとの友へ

東恩納寛惇 <sup>(1)</sup>	2	7	1
宮良 当壮 <sup>(2)</sup>	11	13	
島袋 盛敏 <sup>(3)</sup>	13	14	
比屋根安定 <sup>(4)</sup>	15	17 (30)	
船越 義珍 <sup>(5)</sup>	18	19	
七流 老人 <sup>(6)</sup>	19	20	
石野 径一郎 <sup>(7)</sup>	20	22	
金井喜久子 <sup>(8)</sup>	22	23 (30)	
矢野 克子 <sup>(9)</sup>	24	25	
山川 武正 <sup>(10)</sup>	26	28	

春のことぶれ——留学一年間回顧

豊見山昌二<sup>(11)</sup>

29 - 30

編集後記

(\*) 創刊挨拶は高嶺朝盛、岩原盛勝、神

村朝堅の連名)

31

編集兼発行人・神村朝堅

発行所 おきなわ社・東京都港区芝高

浜町六ノ六

(1) 蔡温は『概説沖縄史』より転載、掲載されたものは『東恩納寛惇全集』(第一書房)に収録

(2) 掲載されたものは『宮良当壮全集』(第一書房)に収録

(3) 一九二〇年県立沖縄図書館の照屋寛範の後任で司書

火野葦平の小説「赤道祭」の琉歌を代作。『琉歌大観』(沖縄タイムス社、一九六四)

(4) 一九一〇年、青山学院神学部入学、在学中「春樹」の

ペンネームで「頽廢派詩人オスカールワイルドの『デア

ロファンデス』を論ず」を『沖縄毎日新聞』に発表

(5) 著『琉球拳法唐手』(一九二二、序文・末吉安恭他)刊、

漢詩人で松濤と号す

(6) 七流老人は伊江朝助のペンネームで質流の意、後に出

てくる函呉夫は病床の妻の看護夫というもので、掲載されたものは『伊江朝助先生を偲ぶ』（伊江朝助顕彰会、一九六四）に収録

(7) 『沖繩近代文芸作品集』（沖繩タイムス社、一九九一）「石野径一郎」参照

(8) 一九五四年、金城朝永の全面的協力で『琉球の民謡』（音楽之友社）刊

(9) 『矢野克子詩集』（宝蔵館、一九七八）刊、「共悦」主幹、兄に徳田球一、矢野西雄は夫

(10) 文部省初等中等教育課、島根県教育委員会社会教育課長、群馬県教育委員会教育長

(11) 『白光抄——富山昌一遺稿集』（富山昌一遺稿集刊行会、一九八〇）

(12) 青山学院大学第二学部主事

第一卷第二号

通巻第二号

昭和二十五年四月二十五日印刷

昭和二十五年五月一日発行



巻頭言

沖繩文化の過去と将来

仲原 善忠

216

沖繩兵——戦犯——公判（弁護人の立場から）

村田 保定 7-9

私は死刑を免れた——喜びの桑江さんに

岩原 盛勝 10-11(17)

面会して

当山久三小伝（上） 金城 時男 12-13(38)

沖繩出身学徒の現況

国場幸太郎 14-17

故郷点綴（中）

寄合の町——那覇風物誌の一節

金城 朝永 18-21

山原かたぎ

島袋 源七 22-24

\*短歌「故郷詠草」——母上の病い重し

城間えみ子 25

とききて

随筆

布哇の思い出

漢那 憲和 26-28

心の故郷

奥武之島漁夫 28-30

清明祭

見里 春 31-32

父を偲ぶ

松山 尚謹 32-34

ソバ談義

ウシンマー生 34-38

出郷の日——ハガキ回答 宮城聡／我謝

秀裕／船越義英／島袋愛子／護得久朝

光<sup>(14)</sup>／比嘉栄子／仲井間宗裕／奥里将建<sup>(15)</sup>／

津田隆達／松本三益／屋部貞／知念君

子

26  
|  
33

訂正

33

琉球ノ舞踊と音楽の夕

沖縄芸能保存会

38

石垣島日食観測をめぐる報道戦

徳田<sup>(16)</sup> 安周

39  
|  
45

編集後記

46

(1) 沖縄人連盟第二代会長。掲載されたものは『仲原善忠全集』(沖縄タイムス社)に収録

(2) 島袋和幸「沖縄の軌跡」第一〇号「金城時男略伝」(二九九一)

(3) 著に『沖縄の歩み』(牧書店、一九七三)。森宣雄・島山淳編著『島ぐるみ闘争』はどうか準備されたか(不二出版、二〇一三)参照

(4) 『おきなわ』第三〇号の天久金四郎、知念辰男はペンネーム。掲載されたものは『金城朝永全集』(沖縄タイムス社)に収録。金城芳子は夫人

(5) 『おきなわ』第二七号「島袋源七氏追悼号」参照

(6) 城間恵美子の歌集に『花風』(一九八七)がある。城間

(7) 海軍少将。妻政子は最後の琉球国王・尚泰の四女。著『今上陛下と昭和新政』(世界社、一九二七)

(8) 斐州ともに早野参造のペンネームで、おきなわ社から『歌集乙女星』(一九五四)、中央書荘から『歌集白玉椿』(一九五八)を刊行

(9) 『おきなわ』第四六号の有銘シズ(即興歌人座間味刀白)は座間味ツルで春の母。この座間味家に鎌倉芳太郎が下宿し、ツルから首里語を学んだ。

(10) 松山王子・尚順の五男

(11) 徳田安周と思われる

(12) 『沖縄近代文芸作品集』(沖縄タイムス社、一九九二)の「宮城聡」、仲程昌徳「宮城聡「改造」記者から作家へ」(ボーダーインク、二〇一四)参照

(13) 空手家・船越義珍の長男。編著『太陽のない子等』(日月社、一九五四)

(14) 一九二二年に結婚し上京。島崎藤村に勧められ女流文芸誌「処女地」に短歌を投稿。沖縄県立図書館の比嘉春潮文庫に「比嘉栄子短歌資料」がある

(15) 著に『琉球人の見た古事記と萬葉』(青山書店、一九二六)、『院政貴族語と文化の南展』(三協社、一九五四)

得栄は夫

(16) 琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人

(17) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(18) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(19) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(20) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(21) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(22) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(23) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(24) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(25) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(26) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(27) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(28) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(29) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(30) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(31) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(32) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(33) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

(34) 『琉球新報編集局次長、ラジオ沖縄放送部長、沖縄タイムス編集委員。徳田澁は夫人』

第一卷第三号

通巻第三号

昭和二十五年五月二十五日印刷

昭和二十五年六月一日発行



巻頭言

南島風土記に寄す

高嶺 明達

2 | 4

石垣島事件——郷土兵戦犯減刑運動報告書

5 | 10

最高峰時代の沖縄文学

奥里 将建

11 | 16

当山久三小伝(2)

金城 時男

17 | 19

故郷点綴(下)

ありし日の中頭

比嘉 春潮

20 | 22

那覇を思ふ

玉代勢法雲

22

宮古島の事

金井喜久子

23 | 25

詩「菜園図」

桃原 思石

26 | 27

琉球こぼれ話(一)

函 呉 夫

28 | 29

あの頃の馬顔公子

比屋根安定

29 | 32

随筆

思出の野球と潟原

山田 有登

33 | 35

ことば談議

鷗 青子

35 | 36

志喜屋知事

城間 得栄

37 | 38

高校生活

桑江 常真

38 | 40

\*短歌「思出はむなし」

美島 望洋

36 | 37

お願い／訂正／次号予告

40

琉球芝居の思い出(中座の巻)

真栄出勝朗

41 | 47

当山久三伝編纂に就いて御願ひ

47

編集後記

48

(1) 旧姓・楚南。沖縄県学徒援護会々長。著『太平洋の孤児』(沖縄通商、一九五二)

(2) 掲載されたものは『比嘉春潮全集』(沖縄タイムス社)に収録

(3) 掲載されたものは『遠慶宿縁』(マカレー東本願寺、一九五三)に収録

(4) 歌人で、熊本で没す。夫人邑子も歌人で著名

(5) 医師。写真家の山田實の父

(6) 本名松田賀徳、句集に『菊の鉢』(一九八〇)

(7) 著に『琉球芝居物語』(青磁社、一九八一)。戦前、大阪で『大阪球陽新報』発行、伊波冬子は妹

第一巻第四号

通巻第四号

昭和二十五年六月二十五日印刷

昭和二十五年七月一日発行



巻頭言

沖繩再建に祈る

大里 康永

2 | 5

独物語を読み蔡温を憶う

神山 政良

6 | 9

空手の現代的課題

金城 裕

10 | 13

当山久三小伝 (3)

金城 時男

14 | 19

琉球こぼれ話 (その二)

函 呉 夫

20 | 22

思出の沖繩 (その一)

新崎 盛珍

22 | 26

島尻の昔話

八幡 一郎

26 | 29

珊瑚礁チービシの想い出

拈華堂主人

30 | 33

俳句と私

翁長日ねもす

33 | 35

\* 短歌「月下美人」

早野 斐州

36

\* 短歌「近詠」

比嘉 栄子

36

艦砲下の首里落ち

仲吉 良光

37 | 47

お願い

47

編集後記

48

(1) 旧姓親泊。一九三二年に新興社を設立し出版活動を展開、謝花昇を広く世に紹介した

(2) 沖繩人連盟第三代会長、東京沖繩県人会初代会長。編著に『年表——沖繩問題と在京県人の動き』(琉球新報社東京総局、一九六六)、『沖繩紀行』(一九七七)

(3) 『月刊空手道』(一九五六) 創刊

(4) 著に『思出の沖繩』(新崎先生著書出版記念会、一九五六)。戦前、月刊『文化沖繩』編集人

(5) 沖繩人連盟文化部長

(6) 一九三三年、虚子門下。句集に『日ねもす句集』(一九五七)

(7) 那覇市文化局歴史資料室などに「仲吉良光関係文書」がある

第一巻第五号

通巻第五号

昭和二十五年八月二十五日印刷

昭和二十五年九月一日発行



巻頭言

戦後の沖繩経済に就て

屋宜 憲三

2 | 5

沖繩人の祖先に就て——大和民族北進論

大湾 知広

6 | 12

沖繩農業に對する断想——作物学の立場

から 宮里 清松

13 | 17

筆者紹介

大湾知広、宮里清松、東恩納寛惇、宮

城桃郁、高里良恭、佐々木微笑、高田

普次夫、国吉順、島袋愛子、新崎盛珍、

比屋根安定

17 | 43

隨筆

漢那さん

東恩納寛惇

18 | 20

明正塾の思い出

宮城 桃郁

20 | 22

敗残者が祖父

高里 良恭

22 | 24

琉球と中国

微笑 生

24 | 27

逃げる花嫁

高田普次夫

27 | 28

中国の憶い出

国吉 順

28 | 30

次号予告

\* 短歌「街路樹」——山原を憶う

島袋 愛子

31

琉球こぼれ話(その三)

函 呉 夫

32 | 34

思出の沖繩(其の二)

新崎 盛珍

34 | 39

あの頃の仲吉良光——カマーターリーの

「チムシカラーサン」

比屋根安定

40 | 43

学園回顧——我が母校二中

城 岳 子

44 | 51

編集後記

52

(1) 新生産業社長、東恩納寛惇『概説沖繩史』(一九五〇・四)

発行

(2) 元軍医、奈良で開業医。兄に宮城桃幸

『沖繩新聞』主筆

(3) 父佐々木笑受郎は謝花昇の『沖繩時論』の主筆を経て、

### 第一巻第六号

### 通巻第六号

昭和二十五年九月二十五日印刷

昭和二十五年十月一日発行



### 巻頭言

電力と沖繩文化

奥里 将建

2 | 7

琉球古謡「十七八節」に就て

玉代勢法雲

8 | 13

あの頃の伊波、東恩納両文学士

比屋根安定

14 | 17

短歌 山内先生の「琉球の音楽」の出版

成りしを祝ひまつりて 遠山 静江 18

琉球こぼれ話(その四) 函 呉 夫 19 | 22

思出の沖繩(その三) 新崎 盛珍 23 | 28

学園回顧——高女時代 徳田 澹 29 | 34

筆者紹介

奥里将建、玉代勢法雲、遠山静江、徳

田澹 34

著書紹介

東恩納先生の『南島風土記』を勧める

金城 朝永 35

山内盛彬氏著『琉球の音楽楽譜』をみて

島袋 源七 35

カッサード女史特別出演 山内盛彬琉球

音楽研究発表会 35

編集後記 36

(1) 下目黒幼稚園経営、遠山寛賢は夫、長男・寛は音楽家

第一巻第七号

通巻第七号

昭和二十五年十一月二十日印刷

昭和二十五年十一月二十五日発行

巻頭言

池田成彬翁と沖繩を語る 仲吉 良光 2 | 7

十七八節について 東恩納寛惇 8 | 10

\*短歌「開墾地」 前原 信明 10

アベツクと老いらくの恋——風俗史考

島袋 盛敏 11 | 12

読書生涯 鷺 苑 12 | 14

トピック

\*コーナー新設のことわり

筆者紹介 15

仲吉良光、前原信明、島袋盛敏、鷺苑、

崎浜秀明 15

学園回顧——師範の思い出 崎浜 秀明 16 | 22

戯曲「胎動するもの」 宮沢 千鶴 23 | 45

編集後記 46



第二巻第一号

通巻第八号

昭和二十六年一月五日印刷

昭和二十六年一月十日発行

\*発行日…奥付は「十日」だが、表紙と裏表紙では「六日」



巻頭言

琉球訪言巡島抄記

宮良 当壮

2 | 8

ペルリの眼に映じた沖繩

新崎 盛珍

9 | 14

短歌「産土の神」

伊波 冬子

15

正月詠 美島望洋／池宮瑞泉／任天居士

16

新春戯作

無曆庵市仙

16

トピック

17

琉球こぼれ話(その五)

函 呉 夫

18 | 21

歌謡詩「夢のユイサ、」

森 英夫

22 | 23

学園回顧——中篇——起て中山の健男児

新垣 淑明

24 | 31

(3)

筆者紹介

宮良当壮、新崎盛珍、伊波冬子、函呉

夫、森英夫、新垣淑明

31

編集後記

発行所 おきなわ社・東京都渋谷区氷

川町四六

(1) 沖繩人連盟初代会長・伊波普猷夫人。「白菊の花・伊波

冬子遺稿集——忍冬その詩・短歌・随想」(若夏社、

一九八四)

(2) 本名遠藤朝英、俳号石村、歌集『向日葵』がある。「オ

キナワグラフ」(一九六六・二)に「我が家を語る」、「青

い海」二号(一九七二)に「声のドクター訪問記」

(3) 成城学園教授

第二巻第二号 《芸能特集》

通巻第九号

昭和二十六年二月五日印刷

昭和二十六年二月十日発行



巻頭言

沖繩の楽器、琴三線に就て 池宮 喜輝

2 | 7

江戸における沖繩芸能の実演

仲原 善忠

7 | 12

組踊と舞踊

新崎 盛珍

12 | 14

村芝居の思い出

島袋 源七

14 | 17

瓦屋節の由来

山里 永吉<sup>(1)</sup>

18 | 20

五線譜「琉球の音楽」を読みて

与那嶺堅亀

21 | 23

\*詩「乙女の哀歌」

宮森 繁樹

23

琉洋両楽の発展史(上)

遠山 寛賢<sup>(2)</sup>

24 | 30

琉球こぼれ話(その六)

函 呉 夫

31 | 32

次号予告

32

トピック

33

著書紹介

比屋根安定君の随筆集「神仏の微笑」

を読む 島袋 盛敏

34

山里慈海師の歌文集「居士は春風」を

読む 島袋 愛子

35

筆者紹介

池宮喜輝、仲原善忠、島袋源七、与那

嶺堅亀、遠山寛賢、宮森繁樹、鷗青子

35

創作「舷窓に映ゆる落日」——若き日の

物語 鷗 青子

36 | 48

編集後記

48

(1) 『沖繩近代文芸作品集』(沖繩タイムス、一九九二)「山

里永吉」参照

(2) 空手家。著に『空手道』(鶴書房、一九五六・四)

第二巻第三号 《ハワイ特集》

通巻第一〇号

昭和二十六年三月五日印刷

昭和二十六年三月十日発行



巻頭言

玉代勢法雲

3

初期沖繩移民の苦闘物語

宮城 伊栄

4 | 6

沖繩移民の発展

吉本 増英

7 | 11

布哇沖繩人五十年史抄

湧川 清栄

12 | 23

布哇産業界に於ける沖繩人の地位

比嘉 至栄

24 | 25

布哇に於ける沖繩人二世の教育

小波津幸秀<sup>(1)</sup>

26 | 27

短歌「楽園の夢」

比嘉 静観<sup>(2)</sup>

28

布哇に於ける沖縄救済事業 玉代勢法雲 29 | 38  
 短歌「布哇風景」 山里 慈海 39

十万の沖縄県人を布哇島に移住せしめよ

玉代勢法雲 40 | 42

川崎沖縄芸能会 金城 時男 42

布哇に於ける沖縄人の長所と短所 比嘉 静観 43 | 46

豊平 走川 46 | 48

健康と食物 天願 保永 48 | 51

沖繩人の体格 山里 慈海 51 | 53

見たり聞いたり味はつたり 大城 登美 54 | 56

アメリカ仏教 与世盛智郎 56 | 58

沖繩文化放送余談 津波 憲実 58 | 60

布哇の野村流琉球音楽 仲真良樽金 60 | 62

\*俳句「布哇（アロハ島）の一年」 玉代勢鼓山 62

短篇「冷めたき光」 外間加津美 63 | 65

筆者紹介

宮城伊栄、吉本増英、湧川清栄、比嘉

至栄、小波津幸秀、比嘉静観、玉代勢

法雲、山里慈海、豊平走川、天願保永、

大城登美、与世盛智郎、津波憲実、仲

真良樽金、外間加津美

布哇郷友人名住所録

編集後記

66 | 73

74

(1) 医師、ハワイ移民一世。今婦仁出身。

(2) 牧師、詩集『生命の爆音』（一九二二）

(3) 掲載されたものは『ハワイ今昔ノート』（琉球新報社、一九九〇）に収録。大見謝恒昌は一八九五年に渡米、

後に北太平洋鉄道会社に勤める

第二巻第四号

通巻第一一号

昭和二十六年四月五日印刷

昭和二十六年四月十日発行



巻頭言

日本帰属への異論に対する所見

仲原 善忠

2

琉球随想	高嶺 明達 <sup>(1)</sup>	3	8
沖繩走りある記	稲垣国三郎	9	14
故里に使用して	神山 政良 <sup>(2)</sup>	15	18
	高里 良薫 <sup>(2)</sup>	19	22
筆者紹介		22	
仲原善忠、高嶺明達、稲垣国三郎、神山政良、高里良薫、亀川亀千代、新城			
山政良、高里良薫、亀川亀千代、新城			
芳雄、富川盛次、遠山寛賢、函呉夫 <sup>(3)</sup>		22	34
短歌「日向雜詠」	亀川亀千代	23	
沖繩は信託統治に就て	新城 芳雄	24	26
沖繩人の立場から	富川 盛次	26	
琉洋両楽の発展史(中)	遠山 寛賢	27	31(34)
琉球こぼれ話(その七)	函 呉 夫	32	34
ニュース			
ハワイを聴く——東京／芸能の集り			
——熊本／映画界に朗報——那覇／沖繩を偲ぶ夕——川崎		35	36
トピック			
保育園とパン工場／沖繩諸島の芸能の集り		36	

野村工工四のタイムの考案	山内 盛彬	37	38
ワーナー博士訪問記	山里 慈海	38	40
沖繩の友 柳田国男先生	崎浜 秀明	41	42
山原から那覇まで	仲村 隆夫	42	44
ハワイ特集号を読んで	比嘉 春潮	44	
学園回顧——商業の思い出	糸数 青秀	45	47
編集後記		48	

(1) 一九一七年、沖繩県師範学校教諭兼附属小学校主事、大阪道仁小学校校長のとき上阪した沖繩の教師たちの面倒をみているが、与那国善三もその一人。

(2) 文部省事務官、「リリアン・チン考(和名・金武百合)」『沖繩タイムス』、一九五九・一〇・一一

(3) 熊本市で一九五〇年三月『オキナワの友』を編集発行著に『ある一市民の軌跡』(一九九三)

第二巻第五号

通巻第一二二号

昭和二十六年六月五日印刷

昭和二十六年六月十日発行



卷頭言 高里 良恭 2

布哇に於ける沖繩帰属問題論議

玉代勢法雲 3 | 4

御進講を終えて 新崎<sup>(1)</sup> 盛敏 5 | 8

野村流工工四編纂の経緯 比嘉 春潮 9 | 12

沖繩諸島の歌と踊の会をみて 島袋 源七 12 | 16

米空軍将兵空手の妙技を堪能 友寄 英毅 43 | 42

自句自解と南方俳人待望 遠藤 石村 17 | 21

短歌「春日」 比嘉 栄子 22

琉洋両楽の発展史(下) 遠山 寛賢 23 | 28

次号予告「故人追憶号」

領土問題に関する決議——衆議院傍聴記 松田精太郎 29 | 30

沖繩の帰属 西平 守光 30

高里良恭、玉代勢法雲、新崎盛敏、比嘉春潮、島袋源七、遠藤石村、比嘉栄子、遠山寛賢、中村清和、山城文盛、友寄英毅 47

著書紹介

仲原善忠君の新著「おもろのふし名出

所索引」 比嘉 春潮 31

疎開学童遭難記 中村 清和 32 | 36

抑留生活の思い出 山城<sup>(2)</sup> 文盛 36 | 40

ニユース

製糖機械、沖繩行き——布哇／＼あけ

ぼの会誕生——東京／琉球舞踊に優

勝旗——熊本／医療連盟幹部の山城氏

ら沖繩え——布哇／にぎやかな童話会

——熊本／山内氏夫妻渡米——東京／

童話「鯉のぼり」 友寄 英毅 43 | 46

筆者紹介 47

高里良恭、玉代勢法雲、新崎盛敏、比

嘉春潮、島袋源七、遠藤石村、比嘉栄子、

遠山寛賢、中村清和、山城文盛、友寄

英毅 47

編集後記 48

(1) 東京大学農学部教授、後に東京沖繩県人会会長。新崎

盛珍は父

(2) のちに東京沖繩県人会事務局長、東京沖繩県人会機関

紙「おきなわの声」編集代表。「山城文盛寄贈資料——

生まれじまの記」(具志川市史編さん室、一九九三)

第二卷第六号 《故人追憶特集》

通巻第一三号

昭和二十六年七月五日印刷

昭和二十六年七月十日発行



民族解放の戦士 謝花昇	大里 康永	2   5
先覚者、当山久三を偲ぶ	湧川 清栄	6   9
ダバオ開拓の恩人 大城孝蔵氏を偲ぶ	上原仁太郎	9   11
仲吉朝助氏	比嘉 春潮	12   14
法曹界の恩人、麓純義氏	仲吉 良光	15   16
宮城鉄夫氏の思い出	平良 徳助	17   21
真境名笑古	東恩納寛惇	21   25
伊波普猷先生と私	比嘉 静観	25   28
詩「微風」	伊波 冬子	29
漢那先生	船越 義英	30   35
田原法水師を語る	玉代勢法雲	35   37
比嘉保彦と佐久原好伝	比屋根安定	38   40
麦門冬を語る	島袋 盛敏	40   44
佐喜真興英の業績について	仲原 善忠	44   51

新聞人、当真嗣合

親泊 政博

51 | 53

父、当真嗣合

当真 嗣弘

53 | 55

八重山の生んだ音楽詩人

宮良長包先生

山里 将秀

55 | 58

世礼国男氏を想う

新屋敷幸繁

59 | 62

故島袋源一郎氏を懐う

島袋 源七

63 | 68

筆者紹介

大里康永、湧川清栄、上原仁太郎、比嘉春潮、仲吉良光、平良徳助、東恩納寛惇、比嘉静観、伊波冬子、船越義英、玉代勢法雲、比屋根安定、島袋盛敏、仲原善忠、親泊政博、当真嗣弘、山里将秀、新屋敷幸繁、島袋源七

編集後記

(1) 一九四六年「沖縄新民報」創刊、後に琉球新報社長

(2) 『新屋敷幸繁全詩集』(一九九四)。「青い海」に多数寄稿

70 69

第二卷第七号 《婦人特集》

通巻第一四号

附 あけぼの会員住所録

昭和二十六年十月五日印刷

昭和二十六年十月十日発行



卷頭言	瀬長 佳奈 <sup>(1)</sup>	2
若き世代の人々へ	与儀 美登 <sup>(2)</sup>	3   5
沖繩の女歌人	金城 芳子 <sup>(3)</sup>	6   11
詩「空につづくふるさと」	矢野 克子	12   13
組踊に表われた女性	島袋 愛子	14   18
短歌「沖繩に散りし子おもう」	上江洲 芳子 <sup>(4)</sup>	19
沖繩の年中行事	見里 春	20   26
中城御殿に於ける「御霊供」に就いて	尚 猷子	27   30

筆者紹介

瀬長佳奈、与儀美登、島袋愛子、見里春、前原蔦子、尚猷子、上江洲芳子、矢野克子、永田美津、比嘉光子、金城芳子、

親泊おと

旅立のことども

前原 蔦子

31 | 33

わが道を往く 金井喜久子さん（写真）

金井さん）

永田 美津

35 | 37

生活と花

比嘉 光子

37 | 38

ニガウリばあさん

親泊 おと

39 | 42

愛称

社告——支局設置 関西（支局長・長田茂）、伯国（支局長・城間善吉）

あけぼの会員住所録

43 | 61

編集後記

初代会長

三越百貨店重役・瀬長良直は夫。東京あけぼの婦人会

62

(1) 三越百貨店重役・瀬長良直は夫。東京あけぼの婦人会

初代会長

(2) 東京あけぼの婦人会二代目会長

(3) 著に『おもひがなし——金城芳子歌日記』（ニライ社、一九九〇）、『惜春譜』（ニライ社、一九九二）

(4) ハワイで亡くなった医師の上江洲智論は夫

第二卷第八号 《領土問題号》

通巻第一五号

昭和二十六年十一月五日印刷

昭和二十六年十一月十日発行

依然、日本から離れず

沖繩の帰属決定す——信託統治は無期

延期？

仲吉 良光

2 | 5

ダレス氏へ期成会の陳情書

復帰期成会

5 | 6

沖繩の日本復帰について

神山 政良

7 | 9

何故に沖繩は日本に復帰せねばならないか

奥里 将建

10 | 13

完全復帰を目指して

大田 政作

14 | 15

島は切れても言葉はつながる

宮良 当壮

16 | 18

南島よ還れ

稲垣国三郎

19 | 21

短歌「栄光あれ沖繩」

舟木英一郎

22 | 23

布哇に於ける帰属問題

与世盛智郎

24 | 26

ニュース



琉球大学へ輸血／島袋氏に招待状／遭

難学童へ花束／緑寿会生る／布哇同胞

結束す

日本の独立と復帰問題

長田 茂

27 | 32

次号予告「沖繩現代史特集」

(1) 復帰期成会関西事務局長、おきなわ社関西支局長

第二卷第九号 《故人追憶特集—第二集》

通巻第一六号

昭和二十六年十二月五日印刷

昭和二十六年十二月十日発行



巻頭言

島袋 源七

2

宜湾朝保の思想的背景

奥里 将建

3 | 10

筆者住所

島袋源七、奥里将建、函呉夫、普久原

朝喜、伊江朝助、金城時男、新崎盛珍、

尚琳、与世盛智郎、上江洲芳子、遠山

静江

10 | 26

琉球こぼれ話(その八) 函 呉 夫 11 | 15

二ユース 普久原朝喜<sup>(1)</sup> 15 | 15

\* 歌謡詩「懐しき故郷」 15 | 15

故人追憶特集——第二集

潮東 大田さんを憶ふ 伊江 朝助 16 | 17

尚鷺泉男の横顔 新崎 盛珍 18 | 20

新沖繩のホープ参事官事岸本賀昌

金城 時男 21 | 26

金武良仁氏を偲ぶ<sup>(2)</sup> 尚 琳 27 | 29

故ドクトル上江洲智綸の追憶 与世盛智郎 30 | 33

短歌「在りし日の布哇を偲びて」 上江洲芳子 33 | 33

安村つる先生 遠山 静江 34 | 36

(1)「昭和にフクバルぶしあり」(『青い海』一〇九号、一九八二)

(2) 男爵、父尚寅は尚泰王第二子。琉球音楽を金武良仁に 師事

第三卷第一号 《児童・生徒号》

通巻第一七号

昭和二十七年一月五日印刷

昭和二十七年一月十日発行

沖繩の初等学校 児童の皆さんへ

沢田 朝序 2 | 3

偉い人とはどんな人を言うか

奥里 将建 4 | 7

筆者紹介

沢田朝序、奥里将建、矢野克子、前原

信明、比屋根安定、安次富松蔵、金城

芳子、島袋源七、見里朝慶<sup>(2)</sup> 7

詩「東京の空」(ふるさとの子供たちへ)

矢野 克子 8 | 9

教室手帖より 前原 信明 10 | 12

禁酒とキリスト教 比屋根安定 13

沖繩移民の恩人 当山久三氏と大城孝蔵氏

安次富松蔵 14 | 18

里子も楽し育ての親 金城 芳子 19 | 21



\* 詩「阿嘉島の子等」

吉田 嘉七

22 | 23

童話

犬と猫

鳥袋 源七

24 | 26

真の友

見里 朝慶

26 | 28

本土在住沖繩出身 児童・生徒作品集

生徒作品 ぼくのいぬ／がくげいかい／

わたくしのいもうと／おもちつき／私

だちの学校／小さい時の思い出／遠足

の日／沖繩の兄さんへ／沖繩のみなさ

まへ／冬の朝／給食感謝の歌／戦争は

いやだ／母／思い出の六年間／私のお

母さん／俳句／戦争と平和／十月十日

の思い出／中学生の皆様／水たまり／

青葉学園（大江教育所）の思い出

29 | 42

(1) 札幌農科大学卒、錦秋高等学校校長、著『旧琉球藩ニ

於ケル糖業政策』（一九三六）

(2) 著に『琉歌の研究』（琉球文教図書株式会社、

一九六六）。見里春は夫人

第三卷第二号 《沖繩現代史号》

通巻第一八号

昭和二十七年五月五日印刷

昭和二十七年五月十日発行

沖繩現代史序説

金城 朝永

1 | 20

沖繩現代政治史

仲原 善忠

20 | 44

沖繩現代産業・経済史

仲原 善忠

44 | 84

沖繩現代社会・風俗史

比嘉 春潮

84 | 97

沖繩現代教育・文化史

鳥袋 源七

98 | 137

沖繩現代史資料及研究文献

金城 朝永

138 | 145

執筆者紹介

金城朝永、仲原善忠、比嘉春潮、鳥袋

源七

附録 沖繩歴史略年表

比嘉春潮（編）

146 | 145

後記——「本号は主として昨秋外務省で

開いた講座の講演を集録したものであ

ります」



第三卷第三号

通巻第一九号

昭和二十七年六月五日印刷

昭和二十七年六月十日発行



思いを郷土に馳せて——郷土再建と移民

問題

城間 善吉

1-3

琉球拳法（空手）の完成者松村宗棍先生

長嶺 将真

4-7

躰けと沖繩の俚諺

見里 朝慶

8-12

日本の体温にふれて

喜屋武真栄

13-16

外間現篤

東恩納寛惇

17-18

読者の声——葉書回答

19・(24)

関西の人々

宮城 久隆

20-21

短歌「榕樹」

早野 斐州

22-23

教育座談会 三月三十日／熊本市水前寺荘

出席者 中村昌信／中村清和／吉里智

篤／新垣淑毅／高里良実／上原啓勲／

又吉真三郎／又吉熊雄／戸口政順／

大浜寛惟／山口重勲／(司会者) 松

田賀徳、(速記) 又吉真三郎、戸口

政順、(文責並浄書) 松田賀徳

25-32

写真 左より戸口、大浜、吉里、上原、

山口、中村(昌信)、松田、又吉(熊

雄)、高里、中村(清和)、新垣、又

吉(真三郎)の諸氏

26

婦人座談会 三月二日／渋谷・ホテル京香

出席者 瀬長佳奈／上江洲芳子／与儀

美登／見里春子／仲井間千代子／島

袋愛子／比嘉栄子／末吉美代子／矢

野克子／金井喜久子／仲宗根八重子／

大里喜久子 (司会者) 金城朝永、(速

記) 前田武行、(本誌) 神村朝堅

33-46

写真 左より比嘉、仲井間、見里、島袋、

与儀、瀬長、金城、前田、神村、矢

野、金井、仲宗根、末吉の諸氏。円

内は上江洲氏

常葉のぶ先生の感想歌

常葉 のぶ

35

筆者紹介

城間善吉、長嶺将真、見里朝慶、喜屋

33

武真栄、東恩納寛惇、宮城久隆、早野

斐州

46

(一) 空手家、師の喜屋武朝徳は首里手の松村宗棍直弟子、

もう一人の師本部朝基は泊手の松茂良興作の弟子。孫

弟子の長嶺は松村、松茂良の一字をとって「松林流」

と名乗る。「拳聖・松村宗棍翁」(『青い海』、一九七六

・二)

### 第三巻第四号 《琉歌集》

通巻第二〇号

昭和二十七年七月五日印刷

昭和二十七年七月十日発行



### 琉歌集

#### 琉歌概説

比嘉 春潮

5-13

第一部 節歌 九十一篇

かぎやで風節／恩納節／中城はんた

前節／特牛節／謝敷節／早作田節／

金武節／平敷節／白瀬走川節／久仁

屋節／辺野喜節／大兼久節／仲村柄  
 節／港原節／出砂節／仲順節／仲間  
 節／本散山節／ちるれん節／坂本節／  
 伊江節／石の根の道節／本部長節／  
 本田名節／大田名節／あがさ節／瓦  
 屋節／赤さくはでさ節／芋の葉節／  
 踊くはでさ節／真福地のはいちよう  
 節／花風節／本花風節／本嘉手久節／  
 ごめん節／つなぎ節／揚作田節／作  
 田節／ぢやんな節／首里節／しよど  
 ん節／暁節／茶屋節／昔蝶節／長ぢ  
 やんな節／仲節／十七八節／東細節／  
 永良部節／昔嘉手久節／柳節／天川  
 節／稲真積節／長伊平屋節／通水節／  
 本伊平屋節／比屋定節／東江節／伊  
 野波節／仲風・今風・赤田風節／述  
 懐節／干瀬節／子持節／散山節／よ  
 しやいなう節／七尺節／揚七尺節／  
 屋慶名節／百名節／白鳥節／萩堂口  
 説／立雲節／伊豆味節／さあさあ節／

浮島節／遊子持節／与那原節／古見の浦節／蝶小節／仲泊節／しやうんがない節／たうがね節／池んとう節／

打豆節／与那節／勝連節／久米はん

た前節／綾蝶節／宇地泊節／津堅節／

遊しやうんがない節

琉歌逸話(一)

第二部 琉歌百控

(一) 琉歌百控 乾柔節流

(二) 琉歌百控 独節流

(三) 琉歌百控 覧節流

第三部 踊り歌 三十一篇

かぎやで風／こてい節／作田節／諸

鈍節／伊野波節／干瀬節／踊くはで

さ節／仲里節／瓦屋節／はんた前節／

しゆんどう節／上り口説／下り口説／

四季口説／前の浜節／辺野喜節／与

那節／高平の万歳／松竹梅／忍び／

麦ぢゆる平笠節／浜千鳥節／花風／

貫花踊／谷茶前節／鳩間節／かなよ

う節／天川／交遊／黒島口説／木遣  
琉歌逸話(二)

第三卷第五号

通巻第二一号

昭和二十七年八月五日印刷

昭和二十七年八月十日発行

\*詩「わか夏の海——表紙に寄せて」

祖国愛 島袋 愛子

踏レ花共惜少年春(明治三十五年冬—  
四十三年春) 稲垣国三郎

四十三春 比屋根安定

渦原の運動会の思い出 高里 良恭

中学時代の或る思い出 比嘉 静観

転居記 島袋 盛敏

慈春尼 山里 慈海

ブラジル事情 山城 興長

おきなわ春秋 矢野 西雄

ハワイ便り

76 | 83  
84



ハワイ沖繩人連合会理事会総会盛大／  
国民指導員来布

国際的教養の高さ 奥里 将建 3-7  
天満宮で尚元魯の書額を見出す

社告——関西支局長に佐久本兼朗（球陽  
堂書房内）

三十年の思い出 安富 英仁 7  
母性礼讃 幸地 長堅 8-10

筆者紹介

琉舞の抱負を語る山田貞子さん（写真  
山田さん） 矢野 克子 11-12

稲垣国三郎、比屋根安定、高里良恭、  
比嘉静観、島袋盛敏、山里慈海、山城  
興長、矢野酉雄、島袋愛子

\*短歌「日記の中より」 早野 斐州 14-15  
著書紹介

※表紙が写真に変わる

東恩納寛惇先生の「童景集」を勧める 金城 朝永 16  
川崎有志座談会（八月三十日・米須清仁宅）

（1）『孤山矢野酉雄』（一九六四）参照

出席者 金城時男／池宮喜輝／米洲清  
仁／渡嘉敷亮／上原仁太郎／亀川盛  
要／町田宗宜（司会者）竹田定英、  
（本社側）神村朝堅／仲程通助

第三巻第六号

写真 向つて右より町田、亀川、竹田、  
米須（清仁）、金城、池宮、渡嘉敷、  
米須（清徳）、神村、仲程の諸氏

通巻第二二二号

東京ニュース

昭和二十七年九月五日印刷



17-24

昭和二十七年九月十日発行

表紙（神戸・沖繩会館）

表紙

17

沖繩会館誌

比嘉 清栄

2

沖繩の芸能と織物展／上京の学童に

『日の丸』／救癩協会生る／沖繩、テ

レビに登場

筆者紹介

比嘉清栄、奥里将建、幸地長堅、矢野

克子、早野斐州、仲原善忠

私たちの小学時代

『琉歌会』御案内

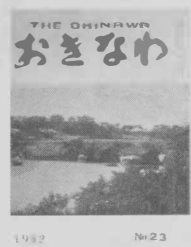
(1) 大阪沖繩県人会連合会初代会長

(第二巻第七号)

通巻第二三三号

昭和二十七年十月五日印刷

昭和二十七年十月十日発行



表紙 (真玉橋)

真玉橋

国民体育大会と沖繩

惣慶忠義と平敷屋朝敏——平敷屋事件の

東恩納寛惇

金城 和彦

表紙

1

2 | 3

真相は何か

本誌々友の集い

次号予告「沖繩民謡集」

照屋宏氏と小嶺幸慶氏

渡嘉敷兄弟のことども

比嘉盛章君を憶ふ

筆者紹介

仲吉朝睦、東恩納寛惇、玉代勢法雲、

宮城源清、<sup>(3)</sup>宮城寛、金城和彦

詩「余の幕舎を訪う客人に」(遺稿)

仲村 渠

中学時代の思い出

三中を憶ふ

日米両国民の気持と日常生活の差異に就て

奥里 将建

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

朝睦

4 | 14

14 | 14

14 | 14

15 | 17

17 | 21

21 | 23

21 | 23

21 | 23

21 | 23

24 | 25

26 | 27

27 | 30

27 | 30

31 | 36

31 | 36

31 | 36

31 | 36

31 | 36

(1) 一九四九年、東京高等体育学校卒、柔道五段、空手師範。

著『愛と鮮血の記録——殉国沖繩学徒隊』(国泷社、

一九六六)

(2) 元旧首里城内沖繩神社社司。著『観光沖繩案内』(向春

商会印刷部、一九三七)

(3) 中国に十年滞在、一九四五年に上海から大阪へ引き揚げた。父輝夫は教員で大阪地方裁判所の書記も務めた。

(4) 詩人。一九四〇年の日本詩人協会の会員名簿に川平朝申、山之口猷、伊波南哲と共に名がある。

### 第三巻第八号 《民謡集》

#### 通巻第二四号

昭和二十七年十二月五日印刷

昭和二十七年十二月十日発行



まえがき

島袋 盛敏

5-11

### 民謡集

第一篇 踊りを主とした民謡

御前風／老人踊（かぎやで風節）／

若衆踊（特牛節）／女踊（ながらた節、

瓦屋節、しよんがない節）／二才踊

（上り口説、下り口説）／女雑踊（浜

千鳥節）／交遊（あやご節）／国頭

さばくり／松竹梅踊／高平万歳／万

歳講者節／おほんしやれ節（京の小

太郎）／せんする節／八重瀬の万歳／

坂原口説／せんする節（森川の子）

組踊／萩堂口説（長刀踊）組踊／大

浦節／久志若按司口説／女花笠踊／

四季口説（若衆扇子踊）／四つ竹踊／

かせかけ踊／花風／しゆんどう踊／

臼太鼓／稻摺節（女雑踊）／伊計離

節（男女雑踊）／前の浜節（二才手

踊）／与那原節（二才手踊）／谷茶

前節（男女雑踊）／三村踊節（男女

雑踊）／汀間節／伊佐へいよ節／阿

嘉のひげ水節／かなよ節／むんぢゆ

る笠節／鳩間節／天川をどり

第二篇 はやり歌

茶売節／主も妻節／越來節／金細工

節／川平節／かまやしな節／引物口

説／あば小へい節／桑もり節／筑登

之前たり節／十七八節

第三篇 歌劇

仲順流／親あんま／夜半参／多幸山／

12-22

23-30

泊阿嘉／福地原ヤツチー／九年母木  
節／仲直り三良小／貞女と孝子琉球  
版「父帰る」／薄情の妻／奥山のほ  
たん

31  
―  
55

第四篇 教訓的民謡

意見口説（十番口説）／孝行口説／  
廢物利用の歌／百姓口説／いろは歌

56  
―  
63

第五篇 雜

だんじゆかれよし節／取納奉行節／  
遊子持節／遊しやうんがない節／石  
の根の道節／石の屏風節／八重山み  
ろく節／今帰仁あつちやまい小節／  
布晒節／本部汀間と節／恋の花節／  
宮古根小／道歌／普天間参詣口説／  
綱曳口説／仲島口説／渡嘉敷親雲上  
口説／づりの身やあはれ（つらね）／  
小禄染屋節／安里屋ユンタ／根間の  
主節／儀保二才の歌

64  
―  
70

奥付に「増頁のため本号の会費は二ヶ月分といたします」と  
ある。

第四卷第一号

通巻第二五号

昭和二十八年一月五日印刷  
昭和二十八年一月十日発行



表紙（壺屋の獅子）

表紙

十三祝と年日——沖繩の成年式と誕生祝  
について

9  
―  
17

沖繩の自然を見廻して

19  
―  
22

ウチナー・ヌ・ハナシ（第一回）

23  
―  
29

弟の見た当山久三——又助は生きている

31  
―  
33

第一回移民

31  
―  
33

沖繩の古代文化と沖繩文化の考え方

34  
―  
52

筆者紹介

34  
―  
52

金城朝永、新崎盛敏、仲宗根源和、比

※表紙裏、本文ページにほとんど大阪在住の県人の広告を掲載。

(1) 一九四七年に戦後初の政党「沖縄民主同盟」を山城善光らと結成。著『沖縄から琉球へ』（月刊沖縄社、一九七三）

(2) 山形県米沢生まれ。一九三九年日本民芸協会の編集担当、柳宗悦一行のメンバーとして来沖、織物を調査する。著『沖縄織物の研究』（紫紅社、一九七六）

第四卷第二号

通巻第二六号

昭和二十八年三月五日印刷

昭和二十八年三月十日発行



たつた一日だけ日の丸を仰いだ沖縄の正月

高嶺 明達 2 | 3

\*詩「耳と波上風景」 山之口 獏 4 | 5

ウチナー・ヌ・ハナシ（第二回）

仲宗根源和 6 | 13

関西実業人座談会 十月二十六日／昭和

食品、安里氏宅

出席者 翁長良孝／安里嗣福／玉城義

明／高良善行／古堅圭平直／伊敷勝秀／

和宇慶盛松、(司会) 宮城桃幸、(本

誌) 神村朝堅、佐久本兼朗

写真(出席者顔写真)

14 | 23

書評 仲原善忠氏の『琉球の歴史』の発

刊を喜ぶ

比嘉 春潮

24

帰郷

桑江 良行

25 | 28

随感(上)——アメリカ生活五十年

小田 朝信

29 | 34

筆者紹介

高嶺明達、山之口獏、仲宗根源和、比

嘉春潮、桑江良行、小田朝信、金城朝

永

34

最近の沖縄研究の傾向と情勢——琉球研

究史の一節

金城 朝永

35 | 48

第四卷第三号 《島袋源七氏追悼号》

通巻第二十七号

昭和二十八年四月五日印刷

昭和二十八年四月十日発行



筆者紹介

(1) 釈迢空、東恩納寛惇、島袋愛子、鳥羽

正雄、見里朝慶、仲原善秀、比嘉栄子、

平良リエ子、仲原善忠、(4) 小那覇全孝、

(5) 当山堅一、山里慈海、早野斐州、小田

朝信、伊波南哲

写真 ありし日の島袋源七氏

\* 短歌「島袋源七君を悲しむ」

釈 迢空

島袋源七君を哀しむ 東恩納寛惇

\* 短歌「哀し一月十五日」 島袋 愛子

島袋源七氏年譜

島袋先生をしのびて 鳥羽 正雄

島袋源七さん 見里 朝慶

島袋源七先生を憶う 仲原 善秀

\* 短歌「島袋源七先生の急逝をかなしみ

て」 比嘉 栄子

源七先生を憶う 平良リエ子

間にあつた三味線! —— 喜如嘉校教え子

の美拳

源七君との最後の仕事 仲原 善忠

健康いろは歌 小那覇全孝

沖繩テニス界の今昔 当山 堅一

柳宗悦先生一行をホノルルに迎えて 山里 慈海

次号(二八号)予告「組踊名作集」

\* 短歌「沖繩旅行」 早野 斐州

沖繩杏林会生る

随感(下) —— アメリカカ生活五十年

小田 朝信

情熱の愛国詩人 —— 琉球の恩納ナビ物語

伊波 南哲

(1) 折口信夫

(2) 鹿児島大学教授、城の研究家

41 | 48

33 | 40

30 | 31

27 | 29

23 | 26

15 | 21

13 | 14

(3) 舞踊家、一九四七年十月二十五日、国学院大学講堂での伊波普猷追悼講演会に琉舞「高平良万歳」を踊ったのが初舞台。「異郷でのわが琉舞人生」猿のいる風景——歌と舞台の夕べ」の文がある

(4) 沖縄民政府文化部芸術課長、乙姫劇団、照屋林助を育てた

(5) 沖縄民政府文化部長の当山正堅は父。戦後台湾から義兄弟の川平朝申と帰沖。川平は小那覇全孝の後任の文化部芸術課長

(6) 詩人、作家。著『長篇叙事詩オヤケ・アカハチ』（東京図書、一九三六、装幀・森田永吉）、三木健編『南島の情熱——伊波南哲の人と文学』（伊波南哲詩碑建立期成会、一九七八）参照

#### 第四巻第四号 《組踊名作集》

##### 通巻第二八号

昭和二十八年五月五日印刷  
昭和二十八年五月十日発行



組踊概説 比嘉 春潮 3 | 5  
組踊名作集

銘苺子 玉城 朝薫 6 | 9

王女の恋 (S) 9

執心鐘入(中城若松) 玉城 朝薫 10 | 12

大和の女と沖縄の女 (S) 12

二童敵討(護佐丸) 玉城 朝薫 13 | 15

あまんぎやな (S) 15

女物狂(人盗人) 玉城 朝薫 16 | 19

人盗人 (S) 19

孝行の巻 玉城 朝薫 20 | 23

感激多き劇 (S) 24

万歳敵討(高平良) 田里 朝直 25 | 28

絢爛たる舞踊劇 (S) 28

義臣物語(国吉のひや) 田里 朝直 29 | 34

按司中の按司 (S) 34

大城崩 田里 朝直 35 | 38

弱くして強き女ノ三組は三組 (S) 39

手水の縁(波平山戸) 平敷屋朝敏 40 | 44

平敷屋朝敏の私小説的劇 (S) 44

表紙写真 料亭なはの新城みね子さん 表紙

口絵写真 鶴見沖縄芸能クラブの浦崎敏

子さん 撮影・崎山 喜昌 口絵1

大川敵討（忠孝婦人、村原）

45  
|  
56

乙樽の貞操

(S)

56

花売の縁（森川の子） 高宮城親雲上

57  
|  
61

森川の子の都落

(S)

61

伏山敵討

62  
|  
67

天願の按司

(S)

67

巡見官

68  
|  
75

巡見の官

(S)

75

姉妹敵討

76  
|  
84

間の物

(S)

84

忠臣身替の巻（八重瀬）

85  
|  
93

堂々たる亀千代

(S)

93

久志の若按司（天顔の若按司）

94  
|  
102

人気者久志の若按司

(S)

102

\*「組踊随想」の(S)は島袋盛敏

沖繩の文学的考察

当間 嗣光

1  
|  
5

波上ぬ眼鏡——ベッテルハイム

比屋根安定

6  
|  
8

布哇沖繩人連合会理事会便り

8

琉球織物研究の権威 田中俊雄君の業績

宮良 当壮

9  
|  
12

写真 ありし日の田中俊雄氏

山之内一郎

13  
|  
15

弔辞

菅沼 祐一

15  
|  
17

無類の善意、謙虚 田中さんを悼む

渡久

18  
|  
25

沖繩が生んだ歌謡界の二大芸術家

森 英夫

18  
|  
25

地政信と波平暁男

写真 渡久地政信氏

21

写真（上海帰りのリルのトリオ）左か

ら作曲の渡久地政信、歌手の津村謙、

作詞の東条寿三郎の三氏

21

写真 波平暁男氏

わが師・わが友——沖繩師範時代

前原 信明

26  
|  
28

私之母

上江洲芳子

29  
|  
30

第四卷第五号

通巻第二九号

昭和二十八年六月五日印刷

昭和二十八年六月十日発行



珊瑚座 火野 葦平 31-43

筆者紹介

当間嗣光、比屋根安定、宮良当壮、山之内一郎、菅沼祐一、森英夫、前原信明、上江洲芳子、火野葦平

(一)『祖国なき沖繩』(日月社、一九五四・六)の監修者

第四卷第六号

通巻第三〇号

昭和二十八年八月五日印刷  
昭和二十八年八月十日発行



表紙 天川を踊る川田姉妹 男役は

姉礼子、女役は妹朝子の両嬢

撮影・江守 太郎

筆者紹介

伊元富爾、広瀬芳子、金城朝永、天久金四郎、福里善光、上里参治、久木田みのる、徳田安周、古堅蒼江、江守太郎

沖繩戦災校舎復興運動に就て

伊元 富爾 2-5

仲宗根八重子さん 沖繩庭球界にカップ

寄贈 5

琉舞礼讃——表紙に寄せて(写真 広瀬

さん) 広瀬 芳子 6-7

新刊紹介

玉代勢法雲『遠慶宿縁』／仲原善忠『琉

球の歴史』下巻 金城 朝永 8・(48)

銷夏読物「沖繩の怪談」

第一話 マストの上の怨霊 天久金四郎 9-12

第二話 紺飛白の袋 福里 善光 12-14

第三話 大岩の下の美女 上里 参治 14-15

第四話 愛蔵の銀簪 知念 辰男 15-18

第五話 雨の夜の一日橋 宮原 敏 18-19

\*短歌「月下美人(夜会草)に寄せて沖

縄を偲ぶ」 久木田みのる 19

東京の屋根の下泡盛は流れる——沖繩

屋繁昌之記 徳田 安周 20-28

写真 琉球の志多伯克進氏／翠麗の

宮城基榕さんと愛娘章子さん／椿山

荘の「なは」開店披露会での上江洲

文子さん／「おもろ」での佐久川昌

子さん—左—と亀川美年子さん。中

央は地謡の山之端つる子さん／花

風」で熱演の平良リエ子さん／多楼

の友寄隆徳氏

\*俳句「家郷遠し」

(2) 古堅 蒼江

20 | 28

\*松竹作品「沖繩健児隊」(上)

沢村 勉

29 | 48

\*大田昌秀・外間守善編『沖繩健児隊』より脚本化

(1) 沖繩戦災校舎復興後援会事務局長、一九一六年に沖繩

県師範学校卒。同期生に新田宗盛、稲村賢敷、比嘉景常、

宮城聡がいる

(2) 俳人。野ざらし延男『沖繩俳句総集』(一九八二)「古

堅蒼江」参照

第四卷第七号

通巻第三二号

昭和二十八年九月五日印刷

昭和二十八年九月十日発行

表紙

撮影・宮城 嗣吉

表紙



「琉球語」という名称に就いて——附説・

琉球の語原

金城 朝永

1 | 7

社告

詩「芸道に励むふるさとの乙女たちに光

栄あれ」

矢野 克子

8 | 9

がじまるの木陰

山之口 獏

10 | 12

王女奈美と瀬名波雲斎

奥里 将建

13 | 16

ニユース

岩井先生を囲む夕／東恩納・伊江さん

祝賀会(写真立つて祝詞を述べる山

城篤男氏)／歓迎攻めの学生舞踊団

(写真 豊島園で衆議院議長堤康次

郎氏夫妻を囲んでの学生舞踊団のス

ナップ)／宮城栄吉師範を囲む琉球

大演芸会——ハワイ便り／「沖繩健

児隊」に出演の那覇千代子さん（写

真）

松竹作品「沖繩健児隊」（下）

17 | 18

沢村 勉

19 | 54

次号予告 沖繩研究号

54

※おきなわ社——東京都中央区銀座西二―三に変わり、発行人

に中田匡彦（第一物商株式会社社長で女優の大空真弓の父）

神村朝堅は編集人

### 第四卷第八号 《沖繩研究号》

#### 通卷第三二号

昭和二十八年十月五日印刷

昭和二十八年十月十日発行



琉球の歴史と文化

金城 朝永 1 | 12

先史時代の沖繩

桜井 清彦 13 | 20 (42)

民族文学としての「おもろさうし」のあ

らまし——その歴史的社会的背景

内間 貫友

21 | 32

琉球の創世神話を謡ったオモロ

琉球の芸能

志賀 信夫

33 | 42

写真 鳩間節・川田礼子／老人踊・か

ぎやで風節・佐久川昌子・石嶺一子／

総掛踊・佐久川昌子

二つの歌——「沖繩戦場小唄」と「終戦

口説」

内間 貫友

43 | 47

沖繩に関する文献——主として歴史・地

誌に就いて

金城 朝永

48 | 54

筆者紹介

金城朝永、桜井清彦、内間貫友、志賀

信夫

裏表紙裏

### 第四卷第九号 附本誌既刊総目録

#### 通卷第三三号

昭和二十八年十二月五日印刷

昭和二十八年十二月十日発行



表紙写真 総掛の根路銘房子さん（第八

回文部省芸術祭参加沖縄芸能使節団)

表紙

「沖縄の文学的考察」を読んで

ハワイのうつりを語る座談会 一九五三年八月十三日 ホノルル市エヴァグリーン

伊波 南哲

20 | 21

出席者 平良牛助 / 玉代勢法雲 / 比嘉静観 / 小波津幸秀 / 金城珍栄 / 山里慈海 / 天願保永

\* 創作「家の抄」

石野径一郎

22 | 33

写真 山里慈海氏 / 平良牛助氏 / 金城珍栄氏 / 小波津幸秀氏 / 比嘉静観氏 / 玉代勢法雲氏 / 天願保永氏

筆者紹介

早野参造、島袋愛子、矢野西雄、数田雨条、伊波南哲、石野径一郎

34 | 59

\* 短歌「鐘——玉代勢法雲氏をはるかに偲びつつ」

(\*) 琉歌一篇

前原 蔦子

60 | 59

沖縄産貝類考(その一)

本誌既刊総目録(一号—三二号)

33

折口先生のことなど

後記

59

琉球舞踊に御感銘 皇太子殿下(写真)(洋園時報)

第五卷第一号

通巻第三四号

60

暁烏敏の恋愛談義——沖縄女師、高女の講演の一コマ

昭和二十九年一月五日印刷

昭和二十九年一月十日発行

60

沖縄俳壇の一角(一)——風物詩風に

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙

数田 雨条

筆者紹介

数田 雨条

17 | 20

矢野 西雄

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙

島袋 愛子

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙

早野 参造

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙

早野 斐州

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙

早野 斐州

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙

数田 雨条

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙

数田 雨条

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙

数田 雨条

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙

数田 雨条

表紙写真

ありし日の守礼門

表紙



早野参造、<sup>(1)</sup>長谷健、徳田安周、遠山静

江、鷗青子、数田雨条、仲原善忠

沖繩糖業沿革史(上) 早野 参造

沖繩の友達 長谷 健

世界提琴界の高峰に挑む鳩山寛(写真)

徳田 安周 22 | 28

\*推薦状(鳩山薫子)

\*短歌「新はる」 遠山 静江 27 26

親泊政博さんを送る 鷗 青子 29 | 33

沖繩俳壇の一角(二)——風物詩風に 数田 雨条 29 | 33

沖繩産貝類考(その二) 早野 参造 34 | 42

郷里から初の文博 本誌編集顧問宮良氏 42

琉球政府移民使節 稲嶺、瀬長氏来布(ハ

ワイ・タイムス) 42

宮古島武勇談 仲原 善忠 43 | 48

第五卷第二号

通巻第三五号

昭和二十九年二月五日印刷

昭和二十九年二月十日発行

表紙写真 天川を踊る親泊興照優(男

役)と宮城能造優(女役) 第八回文

部省芸術祭参加沖繩芸能使節団 写真

提供・日本放送協会 表紙

沖繩糖業沿革史(中) 早野 参造 1 | 7

沖繩紀行 矢成 政朋 8 | 11

筆者紹介 早野参造、矢成政朋、数田雨条、仲原

善忠、比嘉春潮、島袋愛子、鷗青子、

<sup>(1)</sup>伊集田実 11

沖繩俳壇の一角(三)——風物詩風に 数田 雨条 12 | 16

書評 金城朝永校訂『沖繩法制史』 仲原 善忠 12 | 13

(1) 芥川賞作家、九州文学同人、『からたちの花』作者

書評

金城朝永校訂『沖繩法制史』



湧川清栄著『当山久三伝』比嘉 春潮 13 | 14  
 早野参造著『歌集・乙女星』

島袋 愛子 14 | 16

沖縄産貝類考(その三) 早野 参造 17 | 24

\*創作「漁村」 鷗 青子 25 | 37

戯曲「暖冬」 伊集田 実 38 | 48

(一) 料亭那覇支配人、著に『犬田布騒動記』(海風社、一九八七)

第五卷第三号

通卷第三六号

昭和二十九年四月五日印刷

昭和二十九年四月十日発行



表紙写真 『谷茶前』の平良リエさん 表紙

筆者紹介

早野参造、奥里将建、火野葦平、数田

雨条、宮良当壮

沖縄糖業沿革史(下) 早野 参造 2 | 12

沖縄の厄年信仰は平安朝系 奥里 将建 13 | 18  
 平良リエさんのこと 火野 葦平 18

沖縄産貝類考(その四) 早野 参造 19 | 25

ハワイ同胞事業家座談会 一九五三年

十二月八日/ホノルル市慈光園ホール

出席者 仲宗根蒲助/天願加那/上原

正義/伊芸長吉/島袋万吉/仲嶺真

助/山里慈海/天願保永/平真輔

(特別出席) 長堂嘉照、(速記) 津嘉

山朝吉・瀬長清吉 26 | 37

出席者写真 前列向って左より島袋、

伊芸、平、仲宗根、天願加那、瀬長、

長堂、津嘉山、仲嶺、上原、天願保

永、山里の諸氏 27

沖縄俳壇の一角(四)——風物詩風に 数田 雨条 33 | 37

学徒の厳しき試練——日本最大の方言書

を生み出す苦惱 宮良 当壮 38 | 52

第五卷第四号

通卷第三七号

昭和二十九年五月五日印刷

昭和二十九年五月十日発行



表紙写真 ありし日の歓会門

学位論文「琉球諸島言語の国語学的研究」

の概要 宮良 当壮 1-23 (42)

筆者略歴、著書及論文

沖縄産貝類考 (その五) 早野 参造 23-24 (42)

沖縄人的な思考 比嘉 廉雄 24-33 (38)

沖縄俳壇の一角 (五) —— 風物詩風に 数田 雨条 33-37

筆者紹介

宮良当壮、早野参造、比嘉廉雄、数田

雨条、伊波南哲、仲本潤英、押勇一 38

\* 歌謡詩「乙女ごころ」 伊波 南哲 39

\* 短歌「島」 仲本 潤英 40

ハワイ沖縄人連合会便り 41-42

短篇「鷹」 押 勇一 43-48

(1) 八汐計器製作所社長、「関東沖縄経営者協会」創始者の

一人

第五卷第五号

通卷第三八号

昭和二十九年七月五日印刷

昭和二十九年七月十日発行



表紙写真 ハンタン山・あかぎ第一号

撮影・尚 裕 表紙

甘蔗栽培制限に関する一史料

比嘉 春潮 1-12

神奈川県指定無形文化財になる迄の沖縄

芸能 (上) 古江 亮仁 13-17

写真 ありし日の金城時男翁 16

沖縄俳壇作品の鑑賞 —— 沖縄俳人への註文

遠藤 石村 18-26

沖縄とびある記 仲原 善忠 27-32

意気蜻の如し 崎浜 秀明 32

新短歌「沖縄哀唱」 井伊 文子 33

沖繩のシダ類 西田 誠 34 | 36

故郷の遙かな味覚 〃 一世は昔ながらの愛

情に生く〃 比嘉 廉雄 37 | 39

ハンタン山・あかぎ第一号(表紙)(\*説明)

尚 裕 39

琉球の羽衣——ラジオ朗読放送向に

伊波 南哲 40 | 48

写真 奥間に扮する川田朝子さんと天

女に扮する川田礼子さん 40

筆者紹介

比嘉春潮、古江亮仁、遠藤石村、仲原

善忠、崎浜秀明、井伊文子、西田誠、

比嘉廉雄、伊波南哲 48

(1) 尚家第二十二代当主、電通映画社勤務。井伊文子は姉

(2) 後に川崎市立日本家園初代園長。著『みんなのみんな  
かえん』(邯鄲アートサービス、一九八二)

(3) 尚家当主の尚昌の長女、「仏桑花の会」会長。短歌は佐  
佐木信綱に師事。著に歌文集『中城さうし』(一九三六)

第五卷第六号

通巻第三九号

昭和二十九年八月五日印刷

昭和二十九年八月十日発行

筆者紹介

(1) 島尻勝太郎、山之口猷、古江亮仁、森

英夫、福里善光、伊波南哲、矢成政朋

宮古の人頭税について 島尻勝太郎 2 | 6

詩人の一家 山之口 猷 7 | 9

神奈川県指定無形文化財になる迄の沖縄

芸能(中) 古江 亮仁 10 | 13

日本事業界の新鋭中田匡彦(上)——第

一線に起つ郷土人(写真 中田匡彦氏)

森 英夫 14 | 21

銷夏読物・沖縄の怪談

膳箱の唸り 福里 善光 22 | 26

月光に浮かれるもの 伊波 南哲 26 | 28

沖縄収録紀行 矢成 政朋 29 | 40

後記 転載お礼 40



(1) 興南高校、沖繩高校の校長を歴任。著に『近世沖繩の社会と宗教』(三一書房、一九八〇)。子の島尻克美も琉球・沖繩研究者

第五卷第七号

通巻第四〇号

昭和二十九年十月五日印刷  
昭和二十九年十月十日発行



筆者紹介

島尾敏雄、<sup>(1)</sup> 神山南星、古江亮仁、森英夫、永淵一郎

夫、永淵一郎

「沖繩」の意味するもの

島尾 敏雄

2 | 6

短歌「沖繩の女」

神山 南星

6

神奈川県指定無形文化財になる迄の沖繩

芸能(下) —— この一文を金城時男翁

の霊前に捧ぐ

古江 亮仁

7 | 13

神に祈る母国復帰 芸能を乃木神社に奉

納 復帰期成会と芸能研究会

木田 孝典

13

新刊紹介 桑江良行著 校訂・沖繩語の

研究

金城 朝永

14

日本事業界の新鋭中田匡彦(中) —— 第

一線に起つ郷土人

森 英夫

15 | 31

浄財五十八百万円 —— 復興後援会校舎に

悩む沖繩同胞に贈る

32

希望と喜びを持つて勉学に 現地促進会

長屋良氏から謝電

32

「東京の沖繩」

永淵 一郎

33 | 40

(1) 歌文集に『楡のした道』(南九州新聞社、一九八六)などがある

第五卷第八号

通巻第四一号

昭和二十九年十一月五日印刷

昭和二十九年十一月十日発行



表紙写真 親泊興照丈の「高平方歳」

表紙

沖繩での婚姻から判ること —— 歌舞の圈

と関連して <sup>(1)</sup> 奥野彦六郎 2 | 8

\* 短歌「蘇鉄によせて」(花展より)

井伊 文子 8

宮古島の沖繩服属 島尻勝太郎 9 | 12

\* 俳句「帰郷抄」 古堅 蒼江 12

又吉康とおぢさんの思い出(写真) 又吉

康和・太田氏令嬢・太田朝敷・新崎盛

珍・山口全則・長嶺将快) 新崎 盛敏 13 | 16

日本事業界の新鋭中田匡彦(下)——第

一線に起つ郷土人(写真) 西銀座に偉

容を誇る物商ビル) 森 英夫 17 | 29

新刊紹介

仲地吉雄著「憂愁の郷土・沖繩を想う」

金城 朝永 30

靖国の杜で沖繩舞踊 木田 孝英 30

南島秘話「馬天の曙」——尚巴志父子物語

福里 善光 31 | 48

筆者紹介

奥野彦六郎、井伊文子、島尻勝太郎、

古堅蒼江、新崎盛敏、森英夫、福里善光 48

(1) 一九二五年から一九二八年まで那覇地方裁判所判事。在任中、真境名安興の南島研究会に参加。戦後、東京の沖繩文化協会に参加

### 第五卷第九号

#### 通巻第四二号

昭和二十九年十二月五日印刷

昭和二十九年十二月十日発行



表紙写真 戦前の波之上宮遠景 表紙

琉歌の起原について——琉球文学史の一

節 金城 朝永 2 | 8

世界の寵児・空手道(起原・流派・進出・

道徳訓)に就いて 遠山 寛賢 9 | 14

筆者紹介

金城朝永、遠山寛賢、伊地朝義、遠藤

石村、木田孝英、<sup>(2)</sup>大浜信恭 14

沖繩戦「防空壕中苦闘日誌」(非戦闘員

の手記) 伊地 朝義 15 | 20

俳句「蝶凍てて」 遠藤 石村 21

波之上宮再建さる 木田 孝英 22 | 23

\* 創作「九年母の下に眠るべし」

大浜 信恭 24 | 36

東京・横浜・岡山における琉球舞踊の公演 36

(1) 旧姓・我那覇、首里市図書館初代館長。『首里市図書館

年報』(一九三九・十二) 参照

(2) 早稲田大学第七代総長の大浜信泉は兄。作家志望、東  
京都庁勤務

### 第六巻第一号

#### 通巻第四三号

昭和三十年一月五日印刷

昭和三十年一月十日発行



表紙写真 大映スター山本富士子さん 表紙

筆者紹介

桑江良行、森英夫、大浜信恭、与那国<sup>(1)</sup>

善三、山内盛彬

倩女離魂と道成寺と執心鐘入

1

桑江 良行 2 | 6

日本詩壇を独往する流転詩人山之口貌

——第一線に起つ郷土人 森 英夫 7 | 20

家兄信泉を語る 大浜 信恭 21 | 27

一九五四年沖繩の動き(上) 与那国善三 21 | 27

椰子の実

お富さんと「渡久地旋律」(写真 渡

久地政信氏) 本誌記者 28 | 36

おしの世界廻り 山内 盛彬 37 | 48

(1) 後に山城と改姓、沖繩遺族会、沖繩観光連盟創立。著

に『わが回想録』(二九七九)、『沖繩事始め・世相史事

典』(月刊沖繩社、一九八三)

### 第六巻第二号

#### 通巻第四四号

昭和三十年三月五日印刷

昭和三十年三月十日発行



ペリー提督の手紙——附 オランダい

ものこと 仲原 善忠 1 | 7

筆者紹介

仲原善忠、矢野克子、伊波南哲、山之

口獺、森英夫、与那国善三、宮城聡 7

\* 詩

浜ゆうの花——思い出の中より

矢野 克子 8 | 9

蛇皮線 伊波 南哲 8 | 9

酒いろいろ・他一篇 山之口 獺 10 | 12

日本整形外科界の逸材 宜保成一博士

——第一線に起つ郷土人(写真 宜保

博士) 森 英夫 13 | 26

俳句 遠藤 石村(選) 27 | 30

一九五四年沖縄の動き(中) 与那国善三(編) 27 | 30

大人童話「島のはなし」 宮城 聡 31 | 40

第六卷第三号 《金城朝永氏追悼特集》

通巻第四五号

昭和三十年五月五日印刷

昭和三十年五月十日発行

金城朝永氏追悼特集

金城朝永君を惜しむ 比嘉 春潮 2 | 5

弔辞 仲原 善忠 6 | 7

弔辞 石川 正通 7 | 8

最後の面会になった初対面

奥里 将建 9 | 11

朝永君のこと 山里 永吉 11 | 13

忘れ難き懐しい人物 伊波 南哲 13 | 14

七星会回想記 島袋 盛敏 15 | 20

\* 短歌「三月十日前後——金城朝永氏を

悼みて」 比嘉 栄子 16 | 17

筆者紹介

比嘉春潮、仲原善忠、石川正通、奥里

将建、山里永吉、伊波南哲、島袋盛敏、

比嘉栄子、森英夫、早野参造、与那国



善三

5・14

(1) 『石川正通追想集』(石川澄子、一九八五) 参照

沖繩学徒の歌

森 英夫

20

椰子の実

昭和の魔術師(大東製糖社長) 宮城仁

四郎(写真) 大東糖業社長宮城仁四郎

氏と本社専務早野参造氏)

本誌記者

21 - 30

\*短歌「爬竜船」

早野 参造

31

一世と二世を結ぶ人々の座談会

一九五五年三月二十日/ホノルル市慈

光園(写真) 出席者顔写真)

出席者 安里貞雄/沢岷千恵子/儀間

真福/豊平良金/森田つる/金武朝

善/天願保永、(司会) 渡名喜元美、

(速記) 山ノ内俊正

32 - 48

布哇沖繩人連合会今年度新役員の陣容成る

ハワイ沖繩人連合会会報第二号

一九五四年沖繩の動き(下ノ一)

与那国善三(編)

41 - 48

第六卷第四号

通巻第四六号

昭和三十年九月五日印刷

昭和三十年九月十日発行



表紙写真 伊波清子さん——琉球亭なは

表紙

葱花輦上の尚真王母

奥里 将建

1 - 5

即興歌人座間味刀自

有銘 シズ

5

農林界の巨人「宮城鉄夫伝」刊行——予告

6 - 7

隻手の大統領 比嘉秀平

T

8 - 9

甘藷伝来三百五十年

渡口 真清

10 - 13

法窓思い出話 真夏に熱湯を浴びせられ

島袋 全章

14 - 15

三味線とおもろ草紙

高尾 灯童

16 - 18

おもろさうし返還始末記

仲原 善忠

18 - 21

俳句

遠藤 石村(選)

22 - 31

一九五四年沖繩の動き(下ノ二)

与那国善三(編)

22 - 28

琉歌々詞解説 島袋 全章 29 | 31

東京の喜如嘉村 32 | 33

※山原（平良リエ子）開店お知らせ 33

思い出が思い出に、終るなら

春 尚之介 34 | 40

筆者紹介

奥里将建、有銘シズ、渡口真清、島袋

全章、高尾灯童、仲原善忠、遠藤石村、

与那国善三、春尚之介 40

(1) 琉球育英会東京事務所書記、沖縄県学徒援護会沖映寮  
寮監

(2) 医学博士、俳人。著『近世の琉球』（法政大学出版局、  
一九七五・三）

(3) 戦時中、那覇地方裁判所監督書記を辞し上京。敗戦後、  
沖縄文化協会（仲原善忠会長）で奥野彦六郎と再会

(4) 「神を目ざした『逆転』」「『青い海』、一九七八・一一。『青  
い海』福岡専売所も引き受けていた

### III 索引

1. ...  
2. ...  
3. ...  
4. ...  
5. ...  
6. ...  
7. ...  
8. ...  
9. ...  
10. ...  
11. ...  
12. ...  
13. ...  
14. ...  
15. ...  
16. ...  
17. ...  
18. ...  
19. ...  
20. ...  
21. ...  
22. ...  
23. ...  
24. ...  
25. ...  
26. ...  
27. ...  
28. ...  
29. ...  
30. ...  
31. ...  
32. ...  
33. ...  
34. ...  
35. ...  
36. ...  
37. ...  
38. ...  
39. ...  
40. ...  
41. ...  
42. ...  
43. ...  
44. ...  
45. ...  
46. ...  
47. ...  
48. ...  
49. ...  
50. ...  
51. ...  
52. ...  
53. ...  
54. ...  
55. ...  
56. ...  
57. ...  
58. ...  
59. ...  
60. ...  
61. ...  
62. ...  
63. ...  
64. ...  
65. ...  
66. ...  
67. ...  
68. ...  
69. ...  
70. ...  
71. ...  
72. ...  
73. ...  
74. ...  
75. ...  
76. ...  
77. ...  
78. ...  
79. ...  
80. ...  
81. ...  
82. ...  
83. ...  
84. ...  
85. ...  
86. ...  
87. ...  
88. ...  
89. ...  
90. ...  
91. ...  
92. ...  
93. ...  
94. ...  
95. ...  
96. ...  
97. ...  
98. ...  
99. ...  
100. ...

1. ...  
2. ...  
3. ...  
4. ...  
5. ...  
6. ...  
7. ...  
8. ...  
9. ...  
10. ...  
11. ...  
12. ...  
13. ...  
14. ...  
15. ...  
16. ...  
17. ...  
18. ...  
19. ...  
20. ...  
21. ...  
22. ...  
23. ...  
24. ...  
25. ...  
26. ...  
27. ...  
28. ...  
29. ...  
30. ...  
31. ...  
32. ...  
33. ...  
34. ...  
35. ...  
36. ...  
37. ...  
38. ...  
39. ...  
40. ...  
41. ...  
42. ...  
43. ...  
44. ...  
45. ...  
46. ...  
47. ...  
48. ...  
49. ...  
50. ...  
51. ...  
52. ...  
53. ...  
54. ...  
55. ...  
56. ...  
57. ...  
58. ...  
59. ...  
60. ...  
61. ...  
62. ...  
63. ...  
64. ...  
65. ...  
66. ...  
67. ...  
68. ...  
69. ...  
70. ...  
71. ...  
72. ...  
73. ...  
74. ...  
75. ...  
76. ...  
77. ...  
78. ...  
79. ...  
80. ...  
81. ...  
82. ...  
83. ...  
84. ...  
85. ...  
86. ...  
87. ...  
88. ...  
89. ...  
90. ...  
91. ...  
92. ...  
93. ...  
94. ...  
95. ...  
96. ...  
97. ...  
98. ...  
99. ...  
100. ...

## 『おきなわ』執筆者索引・凡例

- 一、本索引は配列を五十音順とした。
- 一、原則として、旧漢字は新漢字に改めた。
- 一、表記は、巻数 - 号数 - 頁数の順とした。
- 一、筆名は→の後に執筆者名を置いた。
- 一、\*は注を付した執筆者である。

## 索引

著者名	卷 - 号 - 頁	糸数 青秀	2-4-45
		稲垣国三郎*	2-4-9, 2-8-19, 3-5-4
		伊波 南哲*	4-3-41, 4-9-20, 5-4-39, 5-5-40, 5-6-26, 6-2-8, 6-3-13
		伊波 冬子*	2-1-15, 2-6-29
		伊元 富爾*	4-6-2
		岩原 盛勝*	1-2-10
		上江洲芳子*	2-7-19, 2-9-33, 3-3-33, 4-5-29
		上原 啓勳	3-3-25
		上原仁太郎	2-6-9, 3-6-17
		上原 正義	5-3-26
		ウシンマー生→徳田 安周	
		内間 貫友	4-8-21, 4-8-43
		江守太郎	4-6- 表紙
		遠藤 石村* (森英夫)	2-1-22, 2-5-17, 4-5-18, 5-5-18, 5-6-14, 5-7-15, 5-8-17, 5-9-21, 6-1-7, 6-2-13, 6-2-27, 6-3-20, 6-4-22
		鷗 青子→松田 賀徳	
		大里喜久子*	3-3-33
		大里 康永*	1-4-2, 2-6-2
		大城 登美	2-3-54
		大田 政作	2-8-14
		大浜 信恭*	5-9-24, 6-1-21
		大浜 寛惟	3-3-25
安里 貞雄	6-3-32		
安里 嗣福	4-2-14		
安次富松蔵*	3-1-14		
天久金四郎→金城 朝永			
新垣 淑明*	2-1-24, 3-3-25		
新崎 盛珍*	1-4-22, 1-5-34, 1-6-23, 2-1-9, 2-2-12, 2-9-18		
新崎 盛敏	2-5-5, 4-1-19, 5-8-13		
有銘 シズ*	6-4-5		
井伊 文子*	5-5-33, 5-8-8		
伊江 朝助* (七流老人、函呉夫)			
	1-1-19, 1-3-28, 1-4-20, 1-5-32, 1-6-19, 2-1-18, 2-2-31, 2-4-32, 2-9-11, 2-9-16		
伊芸 長吉	5-3-26		
池宮 喜輝 (池宮瑞泉)			
	2-1-16, 2-2-2, 3-6-17		
伊地 朝義*	5-9-15		
石川 正通*	6-3-7		
伊敷 勝秀	4-2-14		
石野徑一郎*	1-1-20, 4-9-22		
伊集田 実*	5-2-38		

大湾 知広	1-5-6	漢那 憲和*	1-2-26
沖縄芸能保存会	1-2-38	木田 孝典	5-7-13
奥里 将建*	1-2-30, 1-3-11, 1-6-2, 2-8-10, 2-9-3, 3-1-4, 3-6-3, 3-7-4 4-7-13, 5-3-13, 6-3-9, 6-4-1	木田 孝英	5-8-30, 5-9-22
奥野彦六郎*	5-8-2	儀間 真福	6-3-32
奥武島漁夫→早野 参造		喜屋武真栄	3-3-13
押 勇一	5-4-43	金武 朝善	6-3-32
小田 朝信 (大工廻朝信)	4-2-29, 4-3-33	金城 和彦*	3-7-2
翁長日ねもす*	1-4-33	金城 朝永* (天久金四郎、知念辰男)	1-2-18, 1-6-35, 3-2-1, 3-2-138, 3-3-33, 3-6-16, 4-1-9, 4-2-35, 4-6-8, 4-6-9, 4-6-15, 4-7-1, 4-8-1, 4-8-48, 5-7-14, 5-8-30, 5-9-2
翁長 良孝	4-2-14	金城 珍栄	4-9-1
小那覇全孝*	4-3-22	金城 時男*	1-2-12, 1-3-17, 1-4-14, 2-3-42, 2-9-21, 3-6-17
親泊 おと	2-7-39	金城 裕*	1-4-10
親泊 政博*	2-6-51	金城 芳子*	2-7-6, 3-1-19
折口 信夫* (积迢空)	4-3-2	久木田みのる	4-6-19
<b>【か】</b>		国吉 順	1-5-28
我謝 秀裕	1-2-26	桑江 常真	1-3-38
数田 雨条*	4-9-17, 5-1-29, 5-2-12, 5-3-33, 5-4-33	桑江 良行	4-2-25, 6-1-2
金井喜久子*	1-1-22, 1-3-23, 3-3-33	幸地 長堅*	3-6-8
上里 参治	4-6-14	護得久朝光	1-2-28
神村 朝堅*	3-3-33, 3-6-17, 4-2-14	国場幸太郎*	1-2-14
神山 政良*	1-4-6, 2-4-15, 2-8-7	小波津幸秀*	2-3-26, 4-9-1
神山 南星*	5-7-6	<b>【さ】</b>	
亀川 盛要 (亀川亀千代)	2-4-23, 3-6-17	鷺 苑	1-7-12
函 呉 夫→伊江 朝助		崎浜 秀明	1-7-16, 2-4-41, 5-5-32

崎山 喜昌	4-4- 口絵 1	城間 善吉	3-3-1
佐久本兼朗	4-2-14	城間 得栄	1-3-37
桜井 清彦	4-8-13	新城 芳雄	2-4-24
佐々木微笑	1-5-24	新屋敷幸繁*	2-6-59
沢田 朝序	3-1-2	末吉美代子	3-3-33
沢村 勉	4-6-29, 4-7-19	菅沼 祐一	4-5-15
志賀 信夫	4-8-33	瀬長 佳奈*	2-7-2, 3-3-33
島尾 敏雄	5-7-2	瀬長 清吉	5-3-26
七流 老人→伊江 朝助		外間加津美	2-3-63
島尻勝太郎*	5-6-2, 5-8-9		
島袋 愛子	1-2-27, 1-5-31, 2-2-35, 2-7-14, 3-3-33, 3-5-1, 4-3-3, 4-9-14, 5-2-14	【た】	
島袋 源七*	1-2-22, 1-6-35, 2-2-14, 2-5-12, 2-6-63, 2-9-2, 3-1-24, 3-2-98	平良 牛助	4-9-1
島袋 盛敏	1-1-13, 1-7-11, 2-2-34, 2-6-40, 3-5-12, 3-8-5, 4-4-9, 4-4-12, 4-4-15, 4-4-19, 4-4-24, 4-4-28, 4-4-34, 4-4-39, 4-4-44, 4-4-56, 4-4-61, 4-4-67, 4-4-75, 4-4-84, 4-4-93, 4-4-102, 6-3-15	平良 徳助	2-6-17
島袋 全章*	6-4-14, 6-4-29	平良りエ子*	4-3-13
島袋 万吉	5-3-26	高尾 灯童*	6-4-16
积 迢空→折口 信夫		高里 良恭	1-5-22, 2-5-2, 3-5-8
城 岳 子	1-5-44	高里 良薫*	2-4-19
尚 裕*	5-5- 表紙, 5-5-39	高里 良実	3-3-25
尚 猷子	2-7-27	高田普次夫	1-5-27
尚 琳*	2-9-27	高嶺 明達*	1-3-2, 2-4-3, 4-2-2
城間えみ子*	1-2-25	高宮城親雲上	4-4-57
		高良 善行	4-2-14
		竹田 定英	3-6-17
		田里 朝直	4-4-25, 4-4-29, 4-4-35
		沢岷千恵子	6-3-32
		田中 俊雄	4-1-34
		玉城 義明	4-2-14
		玉城 朝薫	4-4-6, 4-4-10, 4-4-13, 4-4-16, 4-4-20

玉代勢鼓山	2-3-62	豊平 良金 (豊平走川)	
玉代勢法雲*	1-3-22, 1-6-8, 2-3-3, 2-3-29, 2-3-40, 2-5-3, 2-6-35, 3-7-26, 4-9-1		2-3-46, 6-3-32
知念 君子	1-2-32		
長堂 嘉照	5-3-26	仲井間宗裕	1-2-30
津嘉山朝吉	5-3-26	仲井間千代子	3-3-33
津田 隆達	1-2-31	仲宗根蒲助	5-3-26
津波 憲実	2-3-58	仲宗根源和*	4-1-23, 4-2-6
天願 加那	5-3-26	仲宗根八重子	3-3-33
天願 保永	2-3-48, 4-9-1, 5-3-26, 6-3-32	長田 茂*	2-8-27
桃原 思石*	1-3-26	永田 美津	2-7-35
当真 嗣弘	2-6-53	仲原 善秀	4-3-10
当間 嗣光*	4-5-1	仲原 善忠*	1-2-2, 2-2-7, 2-4-2, 2-6-44, 3-2-20, 3-2-44, 3-6-26, 4-3-15, 5-1-43, 5-2-12, 5-5-27, 6-2-1, 6-3-6, 6-4-18
当山 堅一*	4-3-23	永淵 一郎	5-7-33
遠山 寛賢*	2-2-24, 2-4-27, 2-5-23, 5-9-9	仲程 通助	3-6-17
遠山 静江*	1-6-18, 2-9-34, 5-1-27	仲真良樽金	2-3-60
渡嘉敷 亮	3-6-17	長嶺 将真*	3-3-4
徳田 安周* (ウシンマー生)	1-2-34, 1-2-39, 4-6-20, 5-1-22	仲嶺 真助	5-3-26
徳田 澹	1-6-29	仲村 渠*	3-7-24
渡口 真清*	6-4-10	中村 清和	2-5-32, 3-3-25
戸口 政順	3-3-25	仲村 隆夫	2-4-42
常葉 のぶ	3-3-35	中村 昌信	3-3-25
渡名喜元美	6-3-32	仲本 潤英*	5-4-40
鳥羽 正雄*	4-3-6	仲吉 朝睦*	3-7-15
富川 盛次*	2-4-26	仲吉 良光*	1-4-37, 1-7-2, 2-6-15, 2-8-2
豊見山昌一*	1-1-29		

西田 誠	5-5-34	2-6-21, 3-3-17, 3-7-1, 3-7-21,
西平 守光	2-5-30	4-3-2
任天居士	2-1-16	火野 葦平 4-5-31, 5-3-18
拈華堂主人	1-4-30	比屋根安定* 1-1-15, 1-3-29, 1-5-40,
		1-6-14, 2-6-38, 3-1-13, 3-5-5
		4-5-6
【は】		平 真輔 5-3-26
長谷 健*	5-1-18	広瀬 芳子 4-6-6
早野 参造* (奥武之島漁夫、早野 斐州、福里善光、宮原敏)	1-2-28, 1-4-36, 3-3-22, 3-6-14, 4-3-30, 4-6-12, 4-6-18, 4-9-5, 4-9-8, 5-1-8, 5-1-34, 5-2-1, 5-2-17, 5-3-2, 5-3-19, 5-4-24, 5-6-22, 5-8-31, 6-3-31	福里 善光→早野 参造 普久原朝喜* 2-9-15 復帰期成会 2-8-5 船越 義英* (舟木英一郎) 1-2-27, 2-6-30, 2-8-22
早野 斐州→早野 参造		船越 義珍 1-1-18
春 尚之介	6-4-34	古江 亮仁* 5-5-13, 5-6-10, 5-7-7
比嘉 栄子*	1-2-28, 1-4-36, 2-5-22, 3-3-33, 4-3-12, 6-3-16	古堅 蒼江* 4-6-28, 5-8-12
比嘉 至栄	2-3-24	古堅 宗直 4-2-14
比嘉 春潮*	1-3-20, 2-4-44, 2-5-9, 2-5-31, 2-6-12, 3-2-84, 3-2-146, 3-4-5, 4-2-24, 4-4-3, 5-2-13, 5-5-1, 6-3-2	平敷屋朝敏 4-4-40
比嘉 清栄	3-6-2	微笑 生→佐々木微笑
比嘉 静観*	2-3-28, 2-3-43, 2-6-25, 3-5-10, 4-9-1	本誌記者 6-1-28, 6-3-21
比嘉 光子	2-7-37	【ま】
比嘉 廉雄	4-1-31, 5-4-33, 5-5-37	真栄田勝朗* 1-3-41, 3-7-17
東恩納寛惇*	1-1-8, 1-5-18, 1-7-8,	前田 武行 3-3-33
		前原 信明 1-7-10, 3-1-10, 4-5-26
		前原 蔦子 2-7-31, 4-9-59
		又吉 熊雄 3-3-25
		又吉真三郎 3-3-25
		町田 宗宜 3-6-17

松田 賀徳* (鷗青子)	1-3-35,	【や】	
	2-2-36, 3-3-25, 5-1-29, 5-2-25		
松田精太郎	2-5-29	屋宜 憲三*	1-5-2
松本 三益	1-2-31	安富 英仁	3-6-7
松山 尚謹*	1-2-32	矢成 政朋	5-2-8, 5-6-29
見里 朝慶*	3-1-26, 3-3-8, 4-3-7	矢野 克子*	1-1-24, 2-7-12, 3-1-8,
見里 春→見里 春子			3-3-33, 3-6-11, 4-7-8, 6-2-8
見里 春子 (見里春)		矢野 酉雄*	3-5-20, 4-9-17
	1-2-31, 2-7-20, 3-3-33	屋部 貞	1-2-32
美島 望洋	1-3-36, 2-1-16	山内 盛彬	2-4-37, 6-1-37
宮城 伊栄	2-3-4	山川 武正*	1-1-26
宮城 源清	3-7-31	山口 重勲	3-3-25
宮城 嗣吉	4-7- 表紙	山里 永吉*	2-2-18, 6-3-11
宮城 聡*	1-2-26, 6-2-31	山里 慈海*	2-3-39, 2-3-51, 2-4-38,
宮城 久隆	3-3-20		3-5-15, 4-3-27, 4-9-1, 5-3-26
宮城 寛*	3-7-27	山里 将秀	2-6-55
宮城 桃郁*	1-5-20	山城 興長	3-5-18
宮城 桃幸	4-2-14	山城 文盛*	2-5-36
宮里 清松	1-5-13	山田 有登*	1-3-33
宮沢 千鶴	1-7-23	山田 貞子	3-6-13
宮原 敏→早野 参造		山之内一郎	4-5-13
宮良 当壮*	1-1-11, 2-1-2, 2-8-16,	山之口 猷	
	4-5-9, 5-3-38, 5-4-1		4-2-4, 4-7-10, 5-6-7, 6-2-10
宮森 繁樹	2-2-23	山ノ端俊正	6-3-32
村田 保定	1-2-7	八幡 一郎*	1-4-26
無曆庵市仙	2-1-16	与儀 美登*	2-7-3, 3-3-33
森田 つる	6-3-32	吉里 智篤	3-3-25
森 英夫→遠藤 石村		吉田 嘉七	3-1-22
		吉本 増英	2-3-7
		与世盛智郎	2-3-56, 2-8-24, 2-9-30

与那国善三\*

6-1-21, 6-2-27, 6-3-41, 6-4-22

与那嶺堅亀 2-2-21

米洲 清仁 3-6-17

【わ】

和字慶盛松 4-2-14

湧川 清栄 2-3-12, 2-6-6

【アルファベット】

T 6-4-8